

2016
AUTUMN
vol. 160



教職員共済主催

「高田松原再生」体験学習会レポート

||||| 学んで、感じて、未来につなげたい
陸前高田の思い

教職員共済
だより





2016年 vol.160

CONTENTS

- 3 私のおすすめ! 全国の旨いもん⑩ 富山県 シロエビの刺身
- 4 教職員共済主催「高田松原再生」体験学習会レポート
学んで、感じて、未来につなげたい陸前高田の思い
—8組の親子が陸前高田の「今」に触れる—
- 8 不機嫌な教室⑤
いじめを発生させない環境づくり
評論家・NPO法人「ストップいじめ!ナビ」代表理事 荻上 チキ
- 10 NOTICE〈教職員共済ニュース〉
- 12 交差点〔全国からのお便り〕
- 14 伝えたい「いのちの重み」⑫
多民族共存への届かぬ願い
—IS迫害から逃れる、クルド系少数宗教・ヤズディ教徒—
フォトジャーナリスト 安田 菜津紀
- 19 連載まんが シンマイ先生②③ めまたこうたろう
- 20 頭の体操

発行人／加藤良輔
編集／事業メディア部
編集スタッフ／土川泉 日下部信博
佐藤かおり 瀧川真美



写真提供:射水市



富山県 シロエビの刺身

富山湾の宝石といわれるシロエビ。ブリ、ホタルイカと並んで「富山県の魚」として指定され、県民に親しまれています。

以前、5年生社会科・漁業の授業のために、シロエビ漁の船に乗せてもらったことがあります。魚群探知機を見ながら網を入れる中層曳き掛け回し漁という漁法でとれるシロエビは、半透明の薄いピンク色で本当にきれいです。

私が子どもの頃は、シロエビはヒラタエビと呼ばれていました。椎茸やタマネギと一緒に煮込み、素麺の甘いつけ汁としてしか食べることがなく、ひげがちくちくしてあまり好きではありませんでした。

今は冷凍技術が発達して、半解凍のうちに一匹ずつ殻を剥き、身を出して刺身にするようになり、その人気はいっしょに上昇しました。体長5cmほどのシロエビからとれる刺身はほんの2cm程度ですが、甘さは絶品。刺身や軍艦巻きの寿司として食べられる高級品となりました。北陸新幹線が開通し、全国の旅番組でもよく取り上げられます。このシロエビの刺身の昆布メも最高です。富山の地酒(冷酒で)とも、よく合います。

地元の道の駅では、白エビかき揚げ丼や白エビバーガーも超人気です。

(富山県射水市立片口小学校 福山暁雄様より)

「全国の旨いもん」の投稿を心よりお待ちしております。
ホームページのWAI WAI SQUAREからお気軽に!
教職員共済 検索 <http://www.kyousyokuin.or.jp/>
掲載者にはJCBギフトカードをプレゼント!

あんしん むすぶ
教職員共済

<http://www.kyousyokuin.or.jp/>

ケガ・事故・賠償

交通災害共済を改定、
個人賠償がパワーアップ!

レスキュースリー

交通災害共済



後をたたない自転車事故。
高額^①の賠償例も増え、
自転車保険
の加入を
義務付ける
自治体も…

レスキュースリーなら安心!

個人賠償を最高1億円まで補償!

個人賠償は
ご家族まで補償!

※ご家族の範囲は
パンフレットを
ご確認ください。



スポーツ中や日常生活での
さまざまなケガを
補償!



交通事故でのケガは
より手厚い補償!

※校舎内の廊下等での
ケガは交通災害扱い!



※この共済は教職員共済の「交通災害共済」と損害保険会社の「傷害総合保険」を組み合わせたものです。

※この広告はレスキュースリーの概要を説明したものです。ご契約にあたっては必ずパンフレットおよび重要事項等説明書(契約概要・注意喚起情報)をご覧ください。

お問い合わせは10ページ記載の事業所までお気軽にどうぞ!ホームページからも資料請求いただけます。

教職員共済

検索

承16-企-30(1607) SJNK16-05850(2016.07.27)

<http://www.kyousyokuin.or.jp/>

あむりんがレスキュースリーを紹介する動画を公開中!ぜひホームページをチェックしてください!



最上部は4階建てほどの高さがあるだろうか。そこからようやく見えたのが海だった。今住民の命を守るための防潮堤が、ほぼ完成を見ようとしている。その高さは12メートル以上で、長さは1.2キロメートルにも及ぶ。平地からは海は見えないはずであった。子どもたちも少しずつ何かを感じ始めたに違いない。

そこから少し離れた場所にある「奇跡の一本松」は、大人なら誰でも知っているモニユメントだ。しかし、この木はもう生きてはいない。枯れてしまった元の木を複製し、人々の「希望」となるよう元の場所に立てられたもののなのだ。

そして、私たちは今回の滞在先となるキャピタルホテル

**松苗畑で
ボランティアに
汗を流す**

2006年、市民参加のボランティア組織「高田松原を守る会」が発足した。津波が襲って

1000に向かった。このホテルも津波にのまれ、新しく高台に建て直されたものだ。夕食時に参加者が改めて自己紹介をしたとき、第1日目ではあるが、さまざまな感想を述べてくれた。

秋田県から参加した伊藤忠宏さんは、「小学6年生の息子・心」と参加しました。昨年の夏、岩手県の海岸線を車で走ったのですが、まだ至るところで工事が行われていてビックリしました。今回、もう少し詳しく東日本大震災のことを知ることができたのではと期待しています」と話した。

実際、子どもたちは私たち大人が感心するくらい地元の人々の話に真摯に耳を傾けていた。子どもにとっては難しい話もあっただろう。それでも五感で感じようとしていたのかもしれない。

くる前までは陸前高田の海岸線には7万本もの松林があり、「守る会」は、松林の清掃活動や松食い虫被害の発見などの活動を続けていた。しかし、最大17メートルともいわれる大津波は、その松林をすべてなぎ倒してしまった。

「守る会」理事長の鈴木善久さんは、1日目の夕食前に参加者に貴重な話をしてくれた。「陸前高田市民は、奇跡の一本松を見て、勇気や希望、励ましをもらいました。震災に負けるなよ」と。それから「守る会」は「高田松原再生」のための活動を始めたのだという。



2日目、鈴木理事長の案内で、海岸線を見下ろせる高台に向かった。そこで育てられているクロマツやアカマツの苗を、いずれは防潮堤の向こうに移植し、松林の再生を目指すようになっているのだそうだ。その松苗畑で、参加者は雑草取りをするようになった。

真夏の炎天下である。20分作業しては10分程度休み。親も子も、誰も弱音を吐かない。水分補給をしたり、冷却剤で身体を冷やしたりしながら、黙々と作業に励んだ。鍬を手に雑草を刈る親、農作業用の手押し車で刈った雑草を運ぶ子、それぞれが役

学んで、感じて、 未来につなげたい 陸前高田の思い

8組の親子が陸前高田の「今」に触れる

350年ほど前から先人たちが植林を行い、陸前高田市民が守り育ててきた「白砂青松の高田松原」を、あの大津波が襲ったのは5年前のこと。

そこに残されたのは「奇跡の一本松」だけでした。

教職員共済生活協同組合は、陸前高田の人々の思いを感じることができないか、そして、自然の怖さ、自然と共生する喜び、生命の尊さを親子で学び、共有する機会をつくれなかったと考えました。そして実現したのが今回の体験学習会です。全国各地から教職員等の親子8組16名の皆さんが陸前高田に集結しました。



「奇跡の一本松」の前で全員集合。スタッフも一緒に

**荒涼とした
陸前高田の
地を目の当たりに**



7月31日、「高田松原再生」体験学習会の参加者を乗せたバスは、JR一ノ関駅から陸前高田の地に到着した。快晴に近い青空が私たちを迎えてくれたが、それは温かい空気ではなかった。荒涼とした町。いや、町といえるのだろうか。人のいる気配がない、生活のにおいがしない光景がそこにはあった。

2011年3月11日に東北地方を襲った未曾有の大津波が、陸前高田の町からすべてを奪い去ってしまった。あれから5年。がれきはすでにきれいに片付けられてはいるが、復興のために築かれた大規模な盛土が肌を露わにし、無機質な雰囲気をもたらしている。参加者たちは改めて東日本大震災という事実を突きつけられたに違いない。

まず最初に訪れたのは、大震災前は道の駅だった「タピック45」である。かつては市民の憩いの場であったこの場所は、現在は、津波の恐ろしさを語り継



上/元は道の駅だった「タピック45」は震災の遺構として残された
左/タピック45裏側の急な階段を登ると、防潮堤の向こうに海が見えた

ぐための震災遺構として保存されている。

タピック45のガイドの方が特別に私たちを建物の裏側に案内してくれた。裏側の外壁は階段状になっている。「上ってみたい人！」とガイドさんが言うのと、「ハイ」と子どもたちが元気に返事をして、我先にと駆け上がり始めた。子どもたちの親も、そのあとを追う。

まだ食べる時期ではないので残念



上/偶然見学することができた、ワカメの加工風景
左/子どもにもわかりやすく説明をしてくださる漁師の大和田晴男さん



上下/2日目の夜はホテルでバーベキューのあと、花火大会。一気に参加者同士の距離が縮まった

◎参加者

秋田県秋田市 伊藤 忠宏さん・心さん
秋田県秋田市 高橋 雅子さん・里穂さん
長野県伊那市 薩摩林 末佳さん・佑真さん
福井県鯖江市 谷崎 剛さん・秀汰さん
茨城県つくばみらい市 木村 大門さん・泰賢さん
千葉県千葉市 久野 節さん・良太さん
東京都墨田区 皆川 齊さん・瑛さん
兵庫県三田市 山崎 文さん・桃子さん

るかのようだった。
盛りだくさんの体験を終え、いよいよバスは一ノ関に向けて出発した。車中、参加者の感想を聞くことができた。長野県伊那市の薩摩林末佳さんは「親子ともども肌で陸前高田を感じることができた3日間でした」と、福井県鯖江市の谷崎剛さんは「子どもが学校で伝えていくことも大事ですが、私も妻や周囲の人に伝えたいと思います」と、兵庫県三田市の山崎文さんも「この体験を学校現場に還元していきたいです」と話した。
3日間と短い時間ではあったが、参加者の間には確かな交流

が生まれた。そして、それぞれが帰途についたとき、親子の間でこの体験旅行についての会話がなされるに違いない。この経験が新たな絆を生み出してくれることを願ってやまない。
教職員共済にとっては初めての試みである体験学習会。試行錯誤で準備を進めてきて、こうした参加者の声を聞いてホッと胸をなで下ろした。また、参加者たちの真剣な表情、生きいきとした笑顔を見られたことで、体験学習会を開催した意義を感じることができた。参加いただいた皆さまのご協力に深く感謝したい。



左上/カキの養殖場見学の最後に代表して伊藤心さんが感謝の言葉を述べた
左下/海側から見た1本松と防波堤

右/漁師さんがいかだからカキを引き揚げしてくれる



左上/気仙大工左官伝承館で東日本大震災の語り部の話を聞く



左下/工事中の防潮堤の上で、工事関係者の説明を聞く

右下/防潮堤と海岸との間の砂浜に1万本の松苗を植え、松林の復活を目指す



割分担をしながら、そうした作業を午前中いっぱい続けた。
この共同作業から、次第に子ども同士、親同士の連帯感が生まれてきたように思う。西は兵庫県、北は秋田県から集まった

8組の親子。親の職業以外は何の接点もなかった人たちが、まるで家族同士が親しい間柄のように打ち解けている。
合間に鈴木理事長が子どもたちに虫の話や松の話をしてくれる。恐らく、参加した子どもたちにとっては何もかもが初めての体験だったに違いない。作業が終わると、畑は見違えるようにきれいになった。
汗を流して活動したあとは、さらに高台にある気仙大工左官伝承館へ移動し、昼食に。食後、伝承館館長の武蔵裕子さんが、この場所で見学した津波の惨劇や震災時の避難者の人たちの話をしてくれた。茅葺き屋根の家の畳の部屋であぐらをかいたり、縁側に座ったりと、思い思いの姿勢で耳を傾ける参加者たち。畑とは打って変わって、開け放たれた部屋を抜ける風が心地よかった。
午後は、平地に下り、防潮堤の工事現場を見学した。実際に防潮堤の上まで登らせてもらうことができて驚く。実際に工事を担当している人が、子どもたちにもわかりやすく説明してく

れた。ひと通り説明が終わると、子どもたちが積極的に質問を投げる。親たちも興味津々で聞いていた。
そして、防潮堤と海との間に松林を復活させるという話になったとき、「守る会」が松苗を育てている活動が結びついていて、感動したりする親が多かったようだ。大きく破壊された自然。そこに人々を守るために建設される巨大な防潮堤。そして、少しでも自然を復活させようと取り組む市民。自然との闘いは、気が遠くなるほど果てしないと感じた。
漁船に乗って
カキの養殖場を見学
3日目

2隻の漁船に分かれてカキ漁見学へ出発



操舵室の上に登ったり、集まってくるウミネコにえさをやったりと、はしゃいでいた。
漁師の大和田晴男さんは、カキの養殖場が津波の被害に遭ったときのことを話してくれた。震災から5年、今年の春からカキの養殖場は完全復活したのだという。その表情には、生産者としての誇りと底力が漲っている

いじめを目撃した
ときにとるべき行動

いじめを発生させない 環境づくり

これまでこの連載では、各種データを使って、社会にはいじめが「起きやすい教室（不機嫌な教室）」と「起きにくい教室（こ機嫌な教室）」があることを説明してきました。いじめを起きにくくするためには、児童・生徒がストレスなく過ごせる教室・授業づくりが必要となるわけです。

もし、ストレッサー（不機嫌因子）の多い教室であれば、いじめは増大してしまう。だから大人に求められることは、「いじめはいけない」と教えることだけでなく、そもそもしじめが起きにくいよう、自分たちの指導が子どもにとってストレッサーにならないか、子ども同士のコミュニケーションを適切に介助できているかを見直すことなのです。

さて、今回はいじめを理解するた

表 クラスの誰かが他の子をいじめているのを見たときの対応の構成割合

	比較 平成16年	総数	男	女	小学生5 ～6年生	中学生	高校生等
総 数	100	100	100	100	100	100	100
「やめる」と言って 止めようとする	18.0	16.9	21.6	11.6	24.1	13.4	15.1
先生に知らせる	21.4	25.7	26.1	25.3	39.7	25.1	14.8
友達に相談する	36.2	36.4	25.9	48.0	22.1	39.7	44.3
別に何もしない	24.4	21.0	26.3	15.1	14.1	21.8	25.8

注)「高校生等」とは、「高校生」「各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒」の合計である。

厚生労働省「平成21年度全国家庭児童調査」
http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/72-16b.html

通報者、シエルター、
スイッチャーの
役割が必要

話は変わりますが、身近な人が嫌がらせにあっていたら、あなたはどうしますか？ 注意しますか？ それ以外にもいろいろな方法があるでしょう。一つは、その人と一緒に上司や弁護士などに相談に行く。これはいじめで言えば「通報者」の役割ですね。ほかにも、例えば具体的な解決に貢献できなくても、親身になって話を聞き、味方がいると安心させる。これを「シエルター（避難所）」と言います。大人の世界なら、「飲みに行こう」と誘い、ストレスを発散する。それは子どもの世界でも同じで、「憂さ晴らしにゲームやろう」とか「嫌なことがあったね」と言って、寄り添う子どもたちが多くいます。

いじめ自殺が発生するのは、学校と家庭しか居場所のない児童・生徒が多い中で、学校から排除され、家族にも相談できず、どこにも居場所がないという焦燥感に追い込まれてしまったためです。自殺とまでいかなくても、うつや不登校になったりすることもありえます。味方がいるか、それとも孤立感を味わうかで、心理的なプレッシャーは大きく異なります。

そのため大人は、「いじめを見たら

の調査が行われています。例えば厚生労働省の調査を見てみましょう(表)。これは、「クラスの誰かがいじめをしているのを目撃したときにどうするか」を児童・生徒に尋ねた結果です。小学生から高校生までの変化に注目しましょう。「別に何もしない」が増えているのが分かります。つまり、日本では歳を重ねるほど、「見て見ぬふりをする」「人(傍観者)が増えるのです。他方、「止めようとする」「人(仲裁者)は、小学生から中学生にかけて大きく減っています。

「傍観者の数を減らさなければ、仲裁者を増やさなければ」と思うかもしれませんが、ポイントも2点ほど注意が必要です。一点は、日本は海外のいじめと比べても、「暴力系のいじめ」ではなく「コミュニケーション操作系のいじめ」が主流です。要は、証拠が残りにくく、介入することが難しい場合が多いのです。学年が高くなるほど、そ

止めましょう」と教えるばかりでなく、「困っている子がいたら力になりましょう」と助言することが重要です。もう一つ、大人の世界でこんな場面をよく見ませんか。上司が、「だいたい君はいつも……」と説教モードに入ろうとしている。そのとき、空気を読むのに長けた人が、「まあまあ、ところでこの間のコペはよかったですね」と話題をそらす。攻撃が拡大する前に、話題を変換(スイッチ)するのです。子どもの世界でも、「あの子、生意気だよ」と、ターゲット化の芽が生まれそうなときに、「でもこの前、私に消しゴムを貸してくれて助かったよ」と話題をそらす。このように、嫌な話題になりそうなどきに、その芽を摘む人を「スイッチャー」と呼びます。児童・生徒にとっては高度なコミュニケーション能力が必要ですが、教師には必須の能力でもあります。

「いじめの四層構造論」が注目され過ぎた結果、「仲裁者を増やそう」とか「見て見ぬふりも加害者だ」といった言い方をよく耳にするようになりました。しかし、仲裁者ばかりが重要なわけではありません。通報者も、シエルターも、スイッチャーも、いずれも重要な役割なのです。

現在、いじめ防止対策推進法によ

れは狡猾になり、また仲裁したときの反撃リスクも高まります。いじめの仲裁を児童・生徒に委ねるといふのは、そもそもハードルが高いのです。二点目ですが、高校生くらいになると、クラスへの帰属意識も下がり、より特定のグループのみで行動するようになります。そして、他のグループには口をはさまないという不文律が生まれます。そうした観衆の中で、「何もしない」「人の割合が増えることは、環境的に不可避的であるとも言えます。

それでも、傍観者が増加していることがいいとは思えません。では、仲裁者を増やす努力をすべきでしょうか。いや、そうとも限りません。いじめを目撃したときに取るべき行動は、「いじめを止めるか」「無視するか」「二択だけではないのです。

ここで、「通報者」「シエルター」「スイッチャー」という概念を紹介しましょう。通報者は、いじめがあったことを通報する人です。表から、小学生から高校生にかけて「先生に知らせる」という通報者も減少していることが分かります。相談しやすい体制をつくり、匿名でもリークできる機能をつくるなどして、この割合を高めることも重要です。

一方で、「友達に相談する」割合が

り、担任の教員一人でいじめ問題に取り組んではいけなくなりました。学校は常設のいじめ対策チームを持ち、重大事態の際には特設のチームもつくる。そうした事実を児童・生徒に伝え、「どの先生にも相談していい。必ず力になるから」と信頼してもらうことが重要です。子どもたちには、「どう通報すればいいか」を、事前に練習させておくのもいいでしょう。

特に証拠が残りにくいコミュニケーション操作系のいじめでは、「いつ・どこで・誰か・どのように・誰をいじめていて・ほかに目撃者はいたか」を適切に伝えることが重要です。連載①で紹介した「いのちの生徒手帳」は、いじめ目撃メモにも使えます。通報者を増やし、大人が子どもとのシエルターになり、日常的な場面でさりげなくスイッチャーとして振る舞う。「いじめを見て見ぬふりしないようにしよう」の先に、さまざまな選択肢があると伝えること。そして、その際には大人を頼ってもらえるようにするための努力を私たちは続けなくてはなりません。



荻上 千キ

1981年生まれ。シノドス編集長。評論家・編集者。主な著書に「ネットいじめ」(PHP新書)、「社会的な身体」(講談社現代新書)、「いじめの直し方」(共著、朝日新聞出版)、「ダメ情報の見分け方」(共著、生活人新書)、「未来をつくる権利」(NHK出版)など

レスキュースリー（交通災害共済）損保補償分の制度改定のお知らせ

レスキュースリー（交通災害共済）は、教職員共済の商品と損害保険会社の商品を組み合わせた制度です。

このたび、2017年1月契約より損害保険会社補償分（以下、「損保補償分」といいます。）につきまして、補償のより一層の充実および制度の維持・安定的な運営の確保のため、補償内容を一部改定させていただくことになりました。あわせて、損保補償分に適用される保険約款を傷害保険普通保険約款または家族傷害保険普通保険約款から傷害総合保険普通保険約款へ変更させていただきます。

そのため、2017年1月契約より交通災害共済の掛金のうち、損保補償分の保険料が変更（引き上げ）となります（改定後の掛金につきましては、「満期のお知らせ」およびパンフレット等にてご確認ください）。

なお、「交通災害共済」は今回の制度改定にあわせ、愛称が「レスキュースリー（交通災害共済）」となりました。レスキュースリーとは「ケガ」「事故」「賠償」の3つのリスクから組合員を守るという意味があります。

今後とも「レスキュースリー（交通災害共済）」をよろしくお願いいたします。

改定内容の概要

1. 個人賠償責任補償の補償限度額の引き上げ

日常生活に起因する賠償事故（自転車事故など）における高額賠償事案が発生している現状から、以下のとおり補償限度額の引き上げを行います（契約者ご本人の個人型契約口数が2口以下の場合をのぞきます）。あわせて、改定前は補償対象外であった「国外」での事故が補償されるようになります。

契約の型	改定前	契約の型	改定後	
個人型	契約口数に関わらず 1事故につき 最高 1,000 万円	個人型	契約者ご本人の 契約口数	2口以下 1事故につき最高 1,000万円 3口以上 1事故につき 最高 1 億円
家族型	契約口数に関わらず 1事故につき 最高 1,000 万円	家族型	契約口数に関わらず 1事故につき 最高 1 億円	

2. 補償の対象となるケガの範囲の拡大

今までお支払いしない事項として定められていた、地震もしくは噴火またはこれらによる津波によって生じたケガの場合でも、改定後は補償範囲を拡大し、死亡・後遺障害・入院・通院・手術保険金をお支払いします（一般傷害として補償）。

3. 後遺障害保険金の支払等級範囲の改定

当制度における支払保険金が年々増加傾向にある中で、制度の維持・安定的な運営をしていくため、後遺障害保険金（損保補償分）の支払等級を第1級～第7級までに改定します。

支払等級	改定前	支払等級	改定後
	第1級～ 第14級		第1級～ 第7級 ※ 第8級～第14級は補償対象外

※教職員共済補償分については、従来どおり等級第1級～第14級まで補償の対象となります。

4. コース型制度の導入について（個人型）

レスキュースリー（交通災害共済）は今回の制度改定にあわせ、わかりやすく制度をご案内するため、個人型において新たにコース型制度を導入することにいたしました。基本コース（3口）、安心コース（5口）、充実コース（10口）の3種類です。既加入者の方は現在の口数でご継続いただくことも可能ですが、契約内容を変更される場合は上記3つのコースからご選択ください。

交通災害共済 個人型 / ご本人の契約口数が2口以下の皆さまへ

「1. 個人賠償責任補償の補償限度額の引き上げ」で記載しましたとおり、個人型においては契約者ご本人の契約口数が2口以下の場合、補償額は改定前同様、1事故につき最高1,000万円となります。

自転車乗車中の事故で加害者となり1,000万円以上の高額賠償を請求される事案が増えていることから、この機会に基本コース（3口）以上に変更することで補償額を1事故につき最高1億円にすることをおすすめします。

また、あわせて個人型は一人ごとの補償を自由に設計することができますので、ご家族のなかで特におケガがご心配な方がいらっしゃいましたら、一般のケガでもある程度補償額を確保できる安心コース（5口）以上のご契約をおすすめいたします。

詳しくは、現在お届けしております「満期のお知らせ」等をご確認ください。

平成28年(2016年)熊本地震 お支払い状況

教職員共済では、被災された組合員の皆さまの生活再建に向け、共済金・お見舞金をお届けするために本部・事業所一体となって取り組みをすすめてまいりました。

今後も最後のお1人まで共済金・お見舞金をお届けするため、引き続き全力を傾けてまいります。

熊本地震 お支払い状況		2016年8月31日現在
総合共済	226件	27,150,000円
火災共済(地震噴火見舞金)	844件	305,076,000円
自然災害共済	371件	403,392,000円
合 計		735,618,000円

●教職員共済お問い合わせ先一覧●

共済についてのお問い合わせや、お名前・住所・勤務先等変更時のご連絡は、下記までお願いいたします。

※国立大学法人・公立大学（附属等含む）に勤務されている方は大学事業所へ、私立学校に勤務されている方は私学事業所へご連絡ください。

事業所	電 話	事業所	電 話	事業所	電 話
北海道	(011)533-1801	新 潟	(025)281-8145	広 島	(082)264-1752
青 森	(0120)79-9431	富 山	(076)441-4073	山 口	(0120)585-080
秋 田	(0120)245-681	石 川	(0800)200-9431	東四国 (香川・徳島)	(0120)27-8140
岩 手	(019)687-6760	福 井	(0776)23-1334	愛 媛	(089)998-2141
山 形	(0120)31-8528	愛 知	(052)251-1800	高 知	(088)823-4546
宮 城	(0120)384-206	岐 阜	(03)5228-0657	福 岡	(092)631-4601
福 島	(024)523-3011	三 重	(059)225-2220	佐 賀	(0952)31-8730
栃 木	(028)652-8600	京 滋 (京都・滋賀)	(0120)21-7490	長 崎	(095)825-8173
茨 城	(029)301-7151	奈 良	(0120)34-3503	大 分	(097)556-4300
群 馬	(0120)26-0753	和歌山	(0120)21-9431	熊 本	(096)372-1311
埼 玉	(048)823-4055	大 阪	(06)6768-4910	宮 崎	(0120)27-3228
千 葉	(043)224-3701	兵 庫	(078)221-9730	鹿児島	(099)225-2587
東 京	(03)3230-0818	鳥 取	(0120)26-6750	沖 縄	(098)867-1767
神奈川	(045)242-6660	岡 山	(086)273-2359	※大 学	(0120)628-095
山 梨	(055)221-2248	島 根	(0120)21-8361	※私 学	(03)5228-0657
長 野	(026)235-0659	広島(高校)	(0120)955-245		
静 岡	(054)251-1085				

交差点

[全国からのお便り]

日々あらた！ 日々感謝！

福岡県 今里 淑江
定年退職を数年後に控え、一日一日を大切に勤務したいと思っていた昨年、新規採用者の研修指導員となりました。年度当初は、行事等錯綜する時期なので、指導する立場に不安を覚えたものでした。しかし、新採用者の熱意に支えられ、私自身も学ぶことが多くあり、有意義な二年でした。
数年経ったら教職を離れるので、後に続く先生方に伝えられることがあれば、どんな交流したいです。
「不易と流行」日々あらたに子どもたちと過ごしていきます。縁あるすべての方々に感謝しながら…。

三人よれば文殊の知恵

山梨県 三浦 慈
初めて「頭の体操」のコーナーに取り組みました。職場で回覧された資料

生き方の指針

群馬県 井本 利子
学習指導要領の案が提示された。世の中のためぐるしい変化を追う形での改訂。学校現場も振り回されているばかりでなく、世間の風、世界のうねりに見聞を広めていなくてはならない。小・中・高の学習指導要領とともに、教員の生き方の指針、アンテナの感度を上げるための指針など必要かもしれない。
生涯学び続ける人を育てるために、教師も生涯学びであると感ずる。

みんなでサポート

鳥取県 松本 加奈恵
育児休暇を取らせていただいたのですが、子どもが3歳になるので復帰しました。仕事にも家事にも育児にも追われていますが、かなり充実した毎日を送っています。
校長先生をはじめとする職場のみなさんがとても理解があり、参観日やら健診、体調の悪くなった子どものために休暇を取ることを快く受け入れてくださいます。本当にこの職場でよかったなと思います。他の教職員が同じような立場になったときに、私も同じように快くサポートしてあげたいです。みんなが気持ちよく仕事ができるのが一番です！

料のクロスワードに目が止まり、チャレンジしたのがきっかけです。
自分がなかなか解けずにいると、周りの先生たちも「なにになに？」と一緒に考えてくれて、解決！スッキリしました。先生方と「まさに三人よれば文殊の知恵だね」と、話をしていました。

放課後の忙しい仕事に積み重なる中でのこの出来事は、疲れを和らげる、まさに「頭の体操」になりました。

恵まれた社会に感謝

神奈川県 山本 久仁子
教職員だより158号の「伝えたいのちの重み―路地裏で生き抜く子どもたち―」を読み、マニラの子どもたちの様子に胸が痛みました。
昨年まで、ミャンマーのヤンゴンで2年間暮らして、同様のストリートチルドレンをたくさん目にしてきました。週に一度、彼らと勉強のひとときを持つ中で、「もっとたくさん学びたい。毎日学校へ行きたい」という祈りを聞きました。叶わぬ願いに心が苦しくなりました。
日本に戻り、中学校で勤務するようになり、日本の教育制度の素晴らしさ、子どもたちの置かれている環境の良さを改めて感じています。こ

ふるさと納税にチャレンジ

愛知県 田中 ゆかり
教職員共済だより158号で、ふるさと納税の特集があり、うれしく思っています。
前からやりたいなと思っていたので、その記事を夫に見せたところ、検討することとなりました。寄付のお礼として、どんなものが贈られて来るのか楽しみます。
せっかく納税するので、復興の助けになる県を選びたいです。

ところで、先日、愛知でも震度2の地震があり、ちょっと怖かったです。震度7なんて…想像できません。

親の教育が必要？

茨城県 丸山 幸子
小学校一年生の担任をしていたときに感じたことは、「自由に伸び伸び…」という親は何か勘違いをしているという事です。
ついつい楽しくてイタズラ書きをした子の親が「楽しくて悪気がなかったのだから、しからないで」というのです。また、石を投げた子に注意したところ、「友達に当たつてないのだから、いいのでは…」というのです。
はたして、どうなのでしょう。ルールやマナーは、社会に出るために必要で、先生にバレなければ何をやってもいいこ

の恵まれた社会に感謝し、大切に子どもを育みたいのです。

居心地のよい学級づくり

岩手県 中居 澄江
教職員だより158号の「不機嫌な教室③」を読んで、考えさせられました。「教師自ら児童をいじったり、いじめたりする教室では…」あつてはならないことですが、ないと言いつけない思いがします。多忙化を理由に先生方の笑顔が消え、イライラを感じさせるようであれば、教室での学習・生活は楽しいものではありません。
私の勤務する小学校のスローガンは、「笑顔いっぱい 夢いっぱい そして挑戦！」

子どもたちにとって居心地のよい、笑顔で歌声が響き、自分の考えを述べることでできる学級・学校づくりを目指したいものです。

下道ドライブの楽しみ

愛知県 河村 博由
私の住んでいる愛知県西部地区から京都や伊勢へは、高速道路で二時間半ぐらいと近いのですが、最近の行きか帰りのどちらかを下道でドラ

イブしています。

下道を通ると、今まで知っていたはずだったところが思わぬ変化をしていて、驚くことがあります。

先日も滋賀県のあるところで、これまで小学校だったところが道の駅になっていて、びつくりしました。紅葉や桜の季節には、有名でないところにも名所並みの景観が広がることもあります。

目的地ばかりでなく、途中も楽しみながら、そして、ゆつくりマイペースでできる小さな旅が大好きです。

自分の性格を知る

京都府 増田 真由子
どうしても見通しを持つのが苦手な私は、いつも時間がなくなつて子どもたちをせき立ててしまっています。
そこで最近では、何においても五分前行動を心がけるようにしました。そうすると不思議なことに、少しずつですが、帳尻が合うようになってきたのです。そして、焦る気持ちが減り、全体を見ることができるようになり、心のゆとりが生まれました。
自分の欠点を知り、打開策を見出すことで、こんなにも楽になるのかと思うと、子どもたちにもぜひ、この経験を…と考える今日この頃です。

とにはならないはず！

親の教育が叫ばれている世の中が、少し分かるような気がしている今日の頃です。子どもは育てたようにはか育ちません。経験から…。



軒先に並んだ柿

岐阜県 小栗 順子
昨年、はじめて干し柿を作りました。子どもと二緒にせつせと皮をむきました。家の軒先にずらりと並んだ一七〇個の柿はなかなか風情があります。
途中、2回ほど手入れをし、待つこと3週間。その間、かびていないか、雨はあたらなかつたか、毎日のように気にかけて、その甲斐あつてかなんとも深みのある甘さのおいしい干し柿ができあがりました。

今は、お金をだせば何でも手に入る豊かな時代ですが、こうやって、ひと手間かけて手作りする事で、また違った意味の豊かさを感じることができ、とても良い経験になりました。またチャレンジしたいです。

ご存じですか？ 教職員共済のホームページから、『教職員共済だより』に投稿できます！

頭の体操に交差点、全国の旨いもの投稿、さらにはバックナンバーもチェックできます！！



バラエティにとんだ読み物も満載！

授業に役立つヒントから簡単にラクゼーション方法、知っておきたいネットマナーなど、さまざまなテキストを掲載。無料のメールマガジンもチェックです！

ホームページでも「教職員共済だより」をお楽しみいただけます。投稿＆応募も、web経由でとってもカンタン！

教職員共済ホームページ <http://www.kyousyokuin.or.jp/>

教職員共済

検索

キャンプ近くに広がる花畑。瑞々しいナスの収穫が待たれる。



14歳のとき、ISから解放されたヤズディ教徒の少女(本文とは別の少女)。行方不明の兄の写真を片時も離さず身に着けている。

はまばらで、テントの群れがどこか寂しげに見える。周囲を見渡してみても、民家らしきものは見当たらない。「ここに暮らしている半数がヤズディ教徒だ」と管理人が教えてくれた。

ヤズディ教はイラクやシリア、トルコなどに点在する少数宗教で、全体の数は60万人前後、イラクだけで数十万人とされている。入信や改宗が自由にできるものではなく、独自の文化や風習が脈々とコミュニティの中で受け継がれ

ている。イラクの中でも特に信徒が多い街、シンジャルが2014年8月、ISによって制圧され、一時包囲された人々が山の上に孤立した。

ISは彼らを「邪教」として男性を殺害、女性を連れ去り奴隷化するなど、制圧後も過酷な扱いが続いていた。元々彼らはフセイン政権下でも、強制移住などを強いられてきた歴史を持つ。ときの政権や突然やつてきた勢力に、翻弄され続けている人々なのだ。

奴隷にされた少女 家族のもとへ命がけの脱走

ここで暮らす少女の一人、アムシャさん(仮名/16歳)。彼女が暮らす小さなテントの中はがらんとし、マットレスと最低限の家財があるだけ。とても1年以上暮らしているとは思えないほど生活の匂いのない場所だった。母や兄弟姉妹、合わせて13人が身を寄せ合って暮らしている。入り口には絶えずハエが飛び交い、出入りの度に家族たちがそれを払いのける。

2014年8月、アムシャさんが暮らす街をISが急襲。一家はそろって連れ去られることになる。最初に放り込まれたのは学校のような施設で、男たちは荷物運びなど、過酷な労働を強いられたという。

「ISの兵士たちは異教徒の存在を認めません。毎日イスラム教のコーランを朗読させられ、フリーズが読めなければその度に殴られました」

やがて家族から引き離された彼女は、すでに妻子のあるISの兵士との結婚を強要された。「毎

伝えたい いのちの重み

12

多民族共存への 届かぬ願い

— IS迫害から逃れる、クルド系少数宗教・ヤズディ教徒 —

安田 菜津紀 文・写真



更地に広がる難民キャンプ。夏には気温が50℃を超えることもある。

邪教の刻印 過酷な宗教的迫害

イラク北部、クルド人自治区。最も過酷な季節を迎えつつあるこの地を訪れたのは、5月のことだった。焼けつくような日差しの中、時折肌を切るような熱風が駆け抜けて行く。たまらず車に乗り込み、シリア国境の方角へ走っていく道中、砂地の合間をオアシスのように緑が点在していることに気付く。炎天下、畑仕事に精を出す人々に声をかけると、皆この近くのキャンプに暮らす難民たちだという。砂埃の彼方に浮かぶ山肌には、真っ白なテントが無数に固まっているのがうっすらと見えた。

IS(過激派組織「イスラム国」)がこの地で急速に勢力を伸ばしてから2年あまり。「最初は異様に見えたこの光景も、どこか見慣れてしまった」と運転手がため息をつく。

ISの手を逃れてきた約2万人が身を寄せているキャンプの一つを訪ねた。同じ形の白いテントが、乾き切った大地に見渡す限り並んでいる。炎天下を歩く人の姿

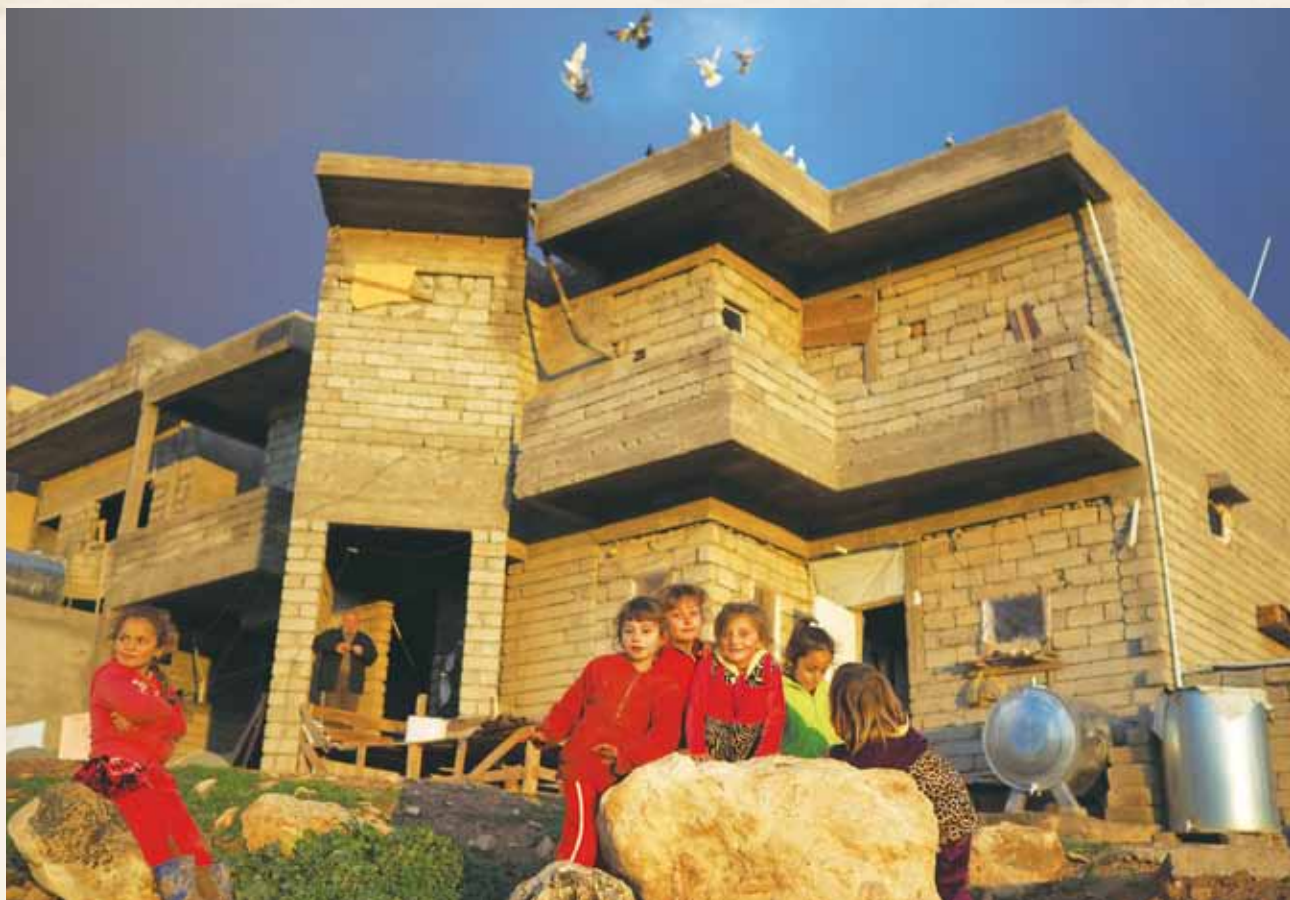
日が、地獄の中で過ごしているように感じた。それから3か月以上、彼女は「夫」の暴力にさらされ続けることになる。耐えがたい日々の中で唯一の「救い」となったのは、妊娠が避けられたことだった。当時まだ14歳だった彼女の身を案じて、妻である女性がこっそり避妊用の薬を渡していたのだ。ようやく隙を見て脱走することができたのは、2015年4月、誘拐から半年以上の月日が経っていた。

「3日間、食べるものも水もなく歩き続けました。追手がこないかと、絶えず怯えながら。その途中、一緒に逃げていた叔母が力尽きました。生きるためには、置いていくほかありませんでした」

一家がもう一度難民キャンプで集えたのは5月、けれどもそこに父親の姿はなかった。その決死の脱出から1年あまり。父親の生死はいまだにわからない。

キャンプの中には小さいながらも学校がある。けれども一家のうち、そこに通っている兄弟、姉妹はいない。

「行きたくないわ。昔みたいに、友達も親戚もない学校になん



避難生活を送るヤズディ教徒の子どもたち。建設途中の建物に、キャンプに入りきれなかった人々がこうして身を寄せる。



安田 菜津紀

フォトジャーナリスト

1987年神奈川県生まれ。studio AFTERMODE 所属フォトジャーナリスト。16歳のとき、「国境なき子どもたち」友情のレポーターとしてカンボジアで貧困にさらされる子どもたちを取材。現在、カンボジアを中心に、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で貧困や災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。2012年、「HIVと共に生まれる -ウガンダのエイズ孤児たち-」で第8回名取洋之助写真賞受賞。現在テレビやラジオでコメンテーターとしても活動中。共著に「アジア×カメラ「正解」のない旅へ」(第三書館)、「ファインダー越しの3.11」(原書房)。上智大学卒。

覚悟はしている、せめて少しでも穏やかに過ごさせてやりたい、とうつぶいたままお父さんはつぶやいた。ナブラスさんが亡くなったのは、その5日後だった。温かな春を迎えることは、叶わなかった。墓参りの折、故郷から持ち出せた貴重なものよ、とお母さんが生前の彼女の写真を見せてくれた。ほんの小さな子どもの頃のものの、そして最期を迎える直前、抜け落ちる髪の毛を気にしていたナブラスさんのために、父が生活費を削って買ったカッパをかぶった写真。娘と過ごした日々を思い出すとき、お母さんは自身にこう、言い聞かせるのだという。

「ナブラスはそれでも、幸せだったのよ。だって遺体が帰ってこな

い人たちも、たくさんいるんだから」
写真の中の彼女は、確かに生きていたのに、と今でも出会った日の一枚一枚を見返すことがある。どうか同じ思いをする子たちがこれ以上増えませぬように。取材中はそんな願いを込めていつもシャッターを切る。その願いは毎回、打ち砕かれる。傷つけ合いの果てに、弱い立場の人たちからまた、犠牲になっていく。
今、イラクの国内避難民の数は360万人を超え、激しい奪還作戦の中、さらに増え続けているといわれている。彼らの声は届くだろうか。私たちの受け止める力が今、問われている。

て」。できれば外にも出たくないの、と言ったまま、彼女はうつむいてしまった。彼女が暮らすキャンプでは、キャンプ内でのイスラムのモスク建設を巡って両者が対立し、暴動にまで発展したことがあった。「コーランを読み上げる声を聞くと、イスに捕まっていたときにイスラム教への改宗を強要されたことを思い出す」というのがヤズディ教徒たちの言い分だった。それほどまでに彼らの心に残された傷はいまだ、生々しい形で残っていた。

なすすべなく失う命 増える非難民に救済策を

避難生活を送るヤズディ教徒の人々が、口々に語ることがある。

「解放されても、私たちの心はまだ、彼ら(イス)に支配されたままなの。だって毎日、戻らない家族たちのことを考えて生きているのですから」

キャンプを離れ、車をさらにシリア国境に走らせていくと、ヤズディ教徒たちが「クツブ」と呼ぶ三角屋根の聖塔が、小高い丘に並ん

冷え切った部屋の中、ナブラスさんの意識が徐々に薄れていった。



でいた。なだらかな斜面には石棺が並ぶ。聴けば故郷に帰れない難民たちが亡くなると、この場所に埋葬されるのだという。その丘の麓に、14歳で亡くなったナブラスさんが眠っている。石棺ではなく、土が盛られただけの墓だった。ナブラスさんを見舞ったのは今年の1月、凍てつく冬の寒さが大地を覆っていた頃だった。郊外の集落の片隅には、かつて誰も暮らしていなかった造りかけの家々が並び、そこに逃れてきたヤズディ教徒たちが住みついていた。

完成前に放棄された家の中で



上/ナブラスさんのお墓。難民たちの石棺のない墓が増え続けている。

左/「どれも生き生きしているわ」とお母さんが見せてくれたナブラスさんの幼い頃の写真。

は、石造りの壁は底冷えし、たった一つの小さなストーブの熱を容赦なく吸い取っていく。薄暗い部屋の中、小さなベッドに横たわり、「痛いよう、苦しいよう」と虚ろな目のままナブラスさんがうめき続ける。その顔を、家族たちが何度も不安げにのぞき込んだ。つい数日前に、「シンジャルに

戻ったら学校に行きたい」と、これから語っていたのだとお母さんが教えてくれた。今は会話をするどころか、家族の顔を認識しているかさえわからなかった。
「イスが私たちの街にやってきたのは突然のことでした。気づけば私の小さな車に、慌てふためく人々が30人以上も飛び乗っていました」。ペシメルガ(クルド人自治区の治安部隊)に属していたというお父さんは、当時の混乱をぼつりぼつりと語ってくれた。ナブラスさんは避難生活の前からがんを患い、化学療法を受けていた。家族は逃げながらも、病院のある街を目指した。
イラクでは本来、医療を無料で受けることができる。けれども石油価格の低迷も重なり、経済は停滞の一途をたどっている。そのしわ寄せが医療にも及んでいた。

「病院に行っても、薬が届いていないんです。そうなれば外の薬局に行つて、自分たちで買わなければならぬ。仕事のない私たちがどうやって、高額ながんの治療薬を手に入れることができるでしょうか?」

くろすわーどばずる

頭の体操

あまり熱中しすぎないように

二重ワクの文字をならべかえと答になります。

1		2	3	4		5	6
		7			8		
9	10				11	12	
	13	14		15			
16				17			18
			19			20	
21		22			23		
24				25			

出題・日下部信博

タテのカギ

1. ○○○の剣
2. 鰐と書く、口の大きな動物
3. ゲリラ豪雨とは違う?
4. ブロックの玩具といえば
6. 思い違い。○○○をまねく
8. 資金を運用し増やすこと
10. 海底に沈めて使う漁具
12. 恩人に○○を返す
14. 平和の象徴
15. たまつき
18. 部活にはつきもの? 最近では廃止する学校も
19. 土俵上の勝敗はこれで表す
21. ←→風
22. 小さい石のこと
23. 静岡県にある弥生時代の遺跡

ヨコのカギ

1. 人の名前が思い出せない
5. 一句にひとつ
7. 魚などの煮汁が固まったもの
9. オリンピックの表彰式で掲げられる
11. MCともいう
13. 日本のインディアンサマー
16. 魔法瓶もこの一種
17. ここに上がった魚は絶体絶命
19. 海のパイナップル
20. お坊さんの仕事着?
22. 財布の中がこれでいっぱい
24. 岩戸・いざなぎ・バブル
25. 首相官邸屋上に落下で大問題

切り取り線

切り取り線



料金受取人払郵便



差出有効期間
2018年9月
30日まで
切手は不要です

162-8790

東京都新宿区山吹町10-1
ラポール日教済

教職員共済生活協同組合
教職員共済だより編集係行



応募要項

- 応募用紙にクイズの答えをご記入の上、お送りください。
- ご応募の締め切りは12月末日(消印有効)。
- 正解者の中から抽選で、500名の方に図書カードを送ります。当選者は発送をもって発表にかえさせていただきます。
- ご応募の際、ご意見、ご感想などお書き添えくだされば幸いです。本誌「交差点」またはホームページに掲載させていただきます。掲載させていただきます場合には商品券を進呈いたします。

158号の正解

「マイナスキンリ」
応募総数328通(正解321通)の中から抽選で100名の方に図書カードをお送りしました。ご応募ありがとうございました。

「頭の体操」応募用紙
資料請求書

※必要事項を「記入の上、のりを塗り、貼り合わせてご投函ください。

切り取り線